

# 青木康先生の略歴と主要業績

## 略歴

- 一九五一年七月 神戸市に生まれる
- 一九七〇年三月 東京都立田園調布高等学校卒業
- 一九七〇年四月 東京大学教養学部文科三類入学
- 一九七二年六月 東京大学文学部西洋史学科進学
- 一九七四年三月 東京大学文学部西洋史学科卒業
- 一九七四年四月 東京大学大学院人文科学研究科西洋史学専攻修士課程入学
- 一九七六年三月 東京大学大学院人文科学研究科西洋史学専攻修士課程修了
- 一九七六年四月 東京大学大学院人文科学研究科西洋史学専攻博士課程進学
- 一九七八年三月 東京大学大学院人文科学研究科西洋史学専攻博士課程中退
- 一九七八年四月 南山大学外国語学部英米学科助手（一九七九年三月まで）
- 一九七九年四月 南山大学外国語学部英米学科専任講師（一九八〇年三月まで）
- 一九八〇年四月 成蹊大学文学部文化学科専任講師（一九八二年三月まで）
- 一九八二年四月 成蹊大学文学部文化学科助教教授（一九八八年三月まで）
- 一九八八年四月 立教大学文学部史学科助教教授（一九九〇年三月まで）
- 一九九〇年四月 立教大学文学部史学科教授（二〇〇六年三月まで）
- 二〇〇一年四月 立教大学文学部史学科長（二〇〇二年三月まで）
- 二〇〇二年五月 立教大学総長室次長（二〇〇三年九月まで）
- 二〇〇三年一〇月 立教大学総長室長（二〇〇六年五月まで）

二〇〇六年四月 立教大学文学部史学科世界史学専修教授 (二〇一七年三月まで)  
 二〇〇六年五月 立教大学図書館長 (二〇〇八年二月まで)  
 二〇〇九年四月 立教大学全学共通カリキュラム運営センター副部長 (二〇一〇年三月まで)  
 二〇一〇年四月 立教大学英語デイスカッション教育センター長 (二〇一二年三月まで)  
 二〇一〇年四月 立教大学全学共通カリキュラム運営センター部長 (二〇一四年三月まで)  
 二〇一四年四月 立教大学総長室調査役 (二〇一四年九月まで)  
 二〇一五年四月 立教大学総長室調査役 (二〇一七年三月まで)  
 二〇一七年四月 立教大学グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター特任教授 (〜現在)

このほか、青山学院大学・お茶の水女子大学・学習院大学・慶應義塾大学・國學院大学・駒澤大学・上智大学・信州大学・成蹊大学・中央大学・中京大学・東京外国語大学・東京女子大学・東京大学・日本女子大学・フェリス女学院大学・放送大学・明治大学・立教大学に兼任講師・非常勤講師として出講

#### 【学会役職】

一九九七年一〇月 史学会 評議員 (二〇一二年三月まで)  
 二〇〇二年一〇月 西洋史研究会 理事 (二〇〇六年一〇月まで)  
 二〇一一年六月 立教大学史学会 会長 (二〇一二年五月まで)

#### 主要研究業績

##### 【著書・編著】

『議員が選挙区を選ぶ―一八世紀イギリスの議会政治―』〔単著〕(山川出版社、一九九七年一月)  
 『イギリス史重要人物一〇一』〔小池滋と共編著〕(新書館、一九九七年七月)  
 『イギリス近世・近代史と議会制統治』〔編著〕(吉田書店、二〇一五年十一月)

【論文（雑誌論文）】

- 「一七八〇年代政治史研究の一動向―政党政治史の側面から―」『イギリス史研究』（二二号、一九七五年六月）
- 「ホイッグ党のイーデン条約反対論―イギリス産業革命初期の工業利害と政党―」『西洋史学』（二〇四号、一九七七年四月）
- 「ホイッグ党とヨークシャー運動」『史学雑誌』（八七巻二号、一九七八年二月）
- 「『ベドフォード公の私的日誌』―一七六〇年代後半政治史研究の一史料―」『イギリス史研究』（二七号、一九七九年四月）
- 「ネーミア以後のイギリス―八世紀政治史―一七六〇年代をめぐる最近の研究―」『史学雑誌』（八九巻一号、一九八〇年一月）
- 「議会エンクロージャーから見た政党―一七六〇年代後半のロッキンガム派とベドフォード派―」『西洋史研究』（一一号、一九八二年一月）
- 「イギリス近代史における中央と地方の問題をめぐって」『イギリス史研究』（三八号、一九八五年一月）
- 「議会外勢力の成長―一八世紀末のイギリス政治―」『歴史学研究』（六五九号、一九九四年六月）
- 「Members of parliament and their connections to constituencies in the eighteenth century: A study in quantitative political history」*Parliaments' Estates and Representation*, 18, Nov. 1998
- 「有力ジェントリの条件―一八世紀末イギリス・サフォーク州の一事例―」『史苑』（六〇巻一号、一九九九年一〇月）
- 「一八世紀イギリスの議会と選挙」『フェリス女学院大学大学院 共同研究報告』（四号、二〇〇二年三月）
- 「To be a member of the leading gentry: The Suffolk voluntary subscriptions of 1782」*Historical Research*, 76, Feb. 2003
- 「一七五〇年代ベリ・セント・エドマンズ市の下院議員選挙 ベリの都市自治体をめぐる補論」『史苑』（七二巻一号、二〇一一年一二月）
- 「The town corporation and the aristocracy: Parliamentary elections in Bury St Edmunds 1754-1757」*Proceedings of the Suffolk Institute of Archaeology & History*, 43-1, Feb. 2014
- 「議会改革運動創成期イギリスの都市自治体と下院議員選挙―一七六〇年代末サマセット州ブリジウォータ市の事例―」

『史苑』(七六卷一号、二〇一五年二月)

「一八世紀イギリスの名望家支配と地域社会―サフォーク州のジェントリ デイヴァーズ家の事例を通して」『史苑』(七八卷一号、二〇一七年二月)

### 【論文(分担執筆)】

「イギリスの議会政治」大下尚一他編『西洋の歴史「近現代編」』(ミネルヴァ書房、一九八七年二月)

「地域社会と名望家支配―一八世紀イギリスの地主貴族―」柴田三千雄他編『規範と統合 シリーズ世界史への問い』五

(岩波書店、一九九〇年六月)

「ハノーヴァ朝の安定」「改革と革命の時代の開幕」今井宏編『世界歴史大系 イギリス史 二 近世』(山川出版社、

一九九〇年八月)

「代議制民主主義の形成」歴史学研究会編『近代世界への道―変容と摩擦―』(東京大学出版会、一九九五年六月)

「フランス革命の衝撃」松村昌家他編『英国文化の世紀 一 新帝国の開花』(研究社出版、一九九六年四月)

「伝統と革新の相克」川北稔編『新版世界各国史 一一 イギリス史』(山川出版社、一九九八年四月)

「選挙区・議会・政府」近藤和彦編『長い一八世紀のイギリス―その政治社会―』(山川出版社、二〇〇二年四月)

「議会政治と立憲君主―イギリス近代―」網野善彦他編『統治と権力 岩波講座天皇と王権を考える 二』(岩波書店、

二〇〇二年六月)

「ジェントルマン社会の女性たち―一八世紀イギリス政治の舞台裏―」フェリス女学院大学編『ペンをとる女性たち』

(フェリス・カルチャーシリーズ二号、翰林書房、二〇〇三年二月)

「一八世紀イギリス地方都市の下院議員選挙―一七五〇年代半ばのベリ・セント・エドマンズ市の事例―」近藤和彦編『歴

史的ヨーロッパの政治社会』(山川出版社、二〇〇八年五月)

「私文書―一八世紀イギリス地方都市の下院議員選挙の内実を知る―」菅谷憲興編『人文資料学の現在Ⅱ 立教大学人

文叢書 四』(春風社、二〇〇八年九月)

「ブリッグズ『イングランド社会史』」樺山紘一編著『新・現代歴史学の名著 普遍から多様へ』(中公新書、二〇一〇年三月)

史苑(第七八卷第一号)

青木康先生の略歴と主要業績

「議会」近藤和彦編『イギリス史研究入門』（山川出版社、二〇一〇年一〇月）

「二八世紀イングランド西部の下院議員―議員と選出区の関係をめぐる―」ブリジウオーターの都市自治体と一七八〇年  
総選挙」青木康編著『イギリス近世・近代史と議会制統治』（吉田書店、二〇一五年二月）

【訳書・翻訳】

J・M・ロバーツ『ペンギン版 図説…世界の歴史 六 ひとつになる世界 ヨーロッパ文明の優位』（小峰書店、

一九八二年九月）

「エリック・ホブズボーム 義賊のなかま―近藤和彦、野村達朗編訳『歴史家たち―E・P・トムスン N・Z・デイヴィ  
ス C・ギンズブルグ他』（名古屋大学出版会、一九九〇年四月）

【『史学雑誌』「回顧と展望」執筆】

「ヨーロッパ…近代―イギリス（一九七七年の歴史学界―回顧と展望）」今井宏、村岡健次と共筆（『史学雑誌』八七巻五号、  
一九七八年五月）

「ヨーロッパ…近代―イギリス（一九八〇年の歴史学界―回顧と展望）」（『史学雑誌』九〇巻五号、一九八一年五月）

「ヨーロッパ…近代―イギリス（一九八三年の歴史学界―回顧と展望）」（『史学雑誌』九三巻五号、一九八四年五月）

「ヨーロッパ…近代―イギリス（一九八九年の歴史学界―回顧と展望）」（『史学雑誌』九九巻五号、一九九〇年五月）

「ヨーロッパ…近代―一般（一九九一年の歴史学界―回顧と展望）」（『史学雑誌』一〇一卷五号、一九九二年五月）

【教科書】

放送大学印刷教材（樺山紘一『ヨーロッパの歴史―基層と革新―』改訂版 ヨーロッパの歴史）（放送大学教育振興会、  
一九九六年・二〇〇一年）の執筆協力

高校世界史教科書（『詳説世界史』（山川出版社、二〇〇三年度以降）など）の分担執筆

【書評・新刊紹介】

- G・R・エルトン（丸山高司訳）『政治史とは何か』（みすず書房、一九七四年）『史学雑誌』（八四卷四号、一九七五年四月）
- 中村英勝『イギリス議会議会政治史論集』（東京書籍、一九七六年）『史学雑誌』（八六卷二号、一九七七年二月）
- K・R・マッケンジー（福田三郎監訳）『イギリス議会―その歴史的考察』（敬文堂、一九七七年）『史学雑誌』（八六卷三号、一九七七年三月）
- 鶴田正治『イギリス政党成立史研究』（垂紀書房、一九七七年）『歴史学研究』（四五二号、一九七八年一月）
- R・C・リチャードソン（今井宏訳）『イギリス革命論争史』（刀水書房、一九七九年）『史学雑誌』（八九卷二号、一九八〇年二月）
- 「村岡健次著『ヴェクトリア時代の政治と社会』（ミネルヴァ書房、一九八〇年）をめぐって」『イギリス史研究』（三〇号、一九八〇年一〇月）
- D・パトラー編（飯坂良明他訳）『イギリス連合政治への潮流』（東京大学出版会、一九八〇年）『史学雑誌』（九〇巻一號、一九八一年一月）
- E・J・ホブズボーム『資本の時代Ⅰ 一八四八〜一八七五』（みすず書房、一九八一年）『週刊読書人』（一四〇三号、一九八一年一〇月一九日）
- 今井登志喜『都市の発達史―近世における繁栄中心の移動』（誠文堂新光社、一九八〇年）『史学雑誌』（九〇巻一、二号、一九八一年一二月）
- 角山栄『茶の世界史―緑茶の文化と紅茶の社会』（中公新書、一九八〇年）『歴史公論』（七三号、一九八一年一二月）
- 松尾太郎『アイルランド問題の史的構造』（論創社、一九八〇年）『史学雑誌』（九一卷三号、一九八二年三月）
- 角山栄・川北稔編『路地裏の大英帝国 イギリス都市生活史』（平凡社、一九八二年）『週刊読書人』（一四二七号、一九八二年四月二二日）
- 青山吉信・今井宏編『概説イギリス史 伝統的理解をこえて』（有斐閣選書、一九八二年）『史学雑誌』（九二巻二号、一九八三年二月）
- 坂井秀夫『イギリス外交の源流―小ピットの体制像―』（創文社、一九八二年）『史学雑誌』（九三巻一号、一九八四年一月）

青木康先生の略歴と主要業績

- 小松春雄『イギリス政党史研究 エドモンド・バークの政党論を中心に』(中央大学出版部、一九八三年)『史学雑誌』(九三卷二号、一九八四年二月)
- 浜林正夫『イギリス名譽革命史』上・下(未來社、一九八一、一九八三年)『歴史学研究』(五二九号、一九八四年六月)
- 川北稔『工業化の歴史的前提 帝国とジェントルマン』(岩波書店、一九八三年)『史学雑誌』(九三卷七号、一九八四年七月)
- レイモンド・ウィリアムズ(山本和平・増田秀男・小川雅魚訳)『田舎と都会』(晶文社、一九八五年)『史学雑誌』(九五卷六号、一九八六年六月)
- ピーター・ラスレット(川北稔・指昭博・山本正訳)『われら失いし世界 近代イギリス社会史』(三嶺書房、一九八六年)『史学雑誌』(九六卷一号、一九八七年一月)
- 村岡健次・鈴木利章・川北稔編『ジェントルマン その周辺とイギリス近代』(ミネルヴァ書房、一九八七年)『社会経済史学』(五四卷三号、一九八八年九月)
- 草光俊雄・近藤和彦・齋藤修・松村高夫編『英国をみる 歴史と社会』(リプロポト、一九九一年)『史学雑誌』(二〇〇卷一号、一九九一年一月)
- 小川晃一『英国自由主義体制の形成―ウィッグとデイセンター―』(木鐸社、一九九二年)『史学雑誌』(二〇二卷一〇号、一九九三年一〇月)
- 田中治男・木村雅昭・鈴木董編『フランス革命と周辺国家』(リプロポト、一九九二年)『歴史学研究』(六五〇号、一九九三年一〇月)
- 松園伸『イギリス議会政治の形成―最初の政党時代を中心に―』(早稲田大学出版部、一九九四年)『歴史学研究』(六七一号、一九九五年五月)
- A・J・クリストファ(川北稔訳)『景観の大英帝国―絶頂期の帝国システム―』(三嶺書房、一九九五年)『社会経済史学』(六二卷三号、一九九六年九月)
- 松園伸『産業社会の発展と議会政治 一八世紀イギリス史』(早稲田大学出版部、一九九九年)『週刊読書人』(二二八一号、一九九九年四月一六日)
- 近藤和彦『文明の表象英国』(山川出版社、一九九八年)『歴史学研究』(七二七号、一九九九年九月)

- 松村赴・富田虎男編著『英米史辞典』（研究社、二〇〇〇年）『学燈』（九七卷七号、二〇〇〇年七月）  
岩井淳・指昭博編『イギリス史の新潮流 修正主義の近世史』（彩流社、二〇〇〇年）『歴史学研究』（七五九号、二〇〇二年二月）  
松浦高嶺『イギリス近代史を彩る人びと』（刀水書房、二〇〇二年）『史学雑誌』（一一一巻一一号、二〇〇二年一月）  
Eliza H. Gould, *The Persistence of Empire: British Political Culture in the Age of the American Revolution* (The University of North Carolina Press, 2000) 『日本一八世紀学会年報』（一八号、二〇〇三年六月）  
古賀秀男『キャロライン王妃事件（虐げられたイギリス王妃）の生涯をとらえ直す』（人文書院、二〇〇六年）『西洋史学』（二二〇号、二〇〇八年九月）  
仲丸英起『名譽としての議席 近世イングランドの議会と統治構造』（慶應義塾大学出版会、二〇一一年）『西洋史学』（二四四号、二〇一二年三月）  
近藤和彦『イギリス史一〇講』（岩波新書、二〇一三年）『史苑』（七五巻一号、二〇一五年一月）

### 【その他】

- 「P・ラスレット氏の一七世紀イギリス社会論をきいて」『イギリス史研究』（二五号、一九七七年一月）  
「『社会史』と現代の歴史学―史学会第七七回大会から―」『月刊エディター 本と批評』（六五号、一九八〇年二月）  
「国家史の射程―ジョン・ブルワー―権力の臆 戦争、金、そしてイギリス国家 一六八八―一七八三年」を讀む」『創文』（三二八号、一九九一年二月）  
「世界史Q&A 星室庁裁判所について教えて下さい」（世界史の研究二四一）『歴史と地理』（六七九号、二〇一四年一月）  
「史苑の窓 イギリス人の歴史好きと周年事業」『史苑』（七五巻二号、二〇一五年三月）  
「史苑の窓 一八世紀イギリスの市議會の出席簿」『史苑』（七八巻一号、二〇一七年二月）